

＜岩成台中学校区＞  
学校統合に向けた第2回意見交換会 次第

日 時 令和7年11月22日（土）  
午前10時から正午まで

場 所 東部市民センター 多目的室

- 1 開会
  
- 2 学校統合に向けた検討について
  
- 3 意見交換
  
- 4 その他
  
- 5 閉会



市ホームページ

これまでに実施した、学校の適正規模等に関するアンケート結果及び意見交換会の会議録を掲載しています。

# I 小中学校の適正規模等の取組について

日本の人口は平成 20 年をピークに減少局面に入り、合計特殊出生率は低い水準で推移しています。全国的に出生数が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいます。

本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 13 年度には約 57% 減少の 13,312 人に、中学生の人数については、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 19 年度には約 59% 減少の 6,221 人になると推計しています。

子どもたちの数の減少により、今後標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えています。

将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していくために、本市では、学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。

## 1 学校規模の区分

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	(中学校のみの区分) 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

### (1) 小学校における学校規模の区分

学級数	～ 6	7～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

### (2) 中学校における学校規模の区分

学級数	～ 3	4～5	6～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	やや 小規模	適正規模	大規模	過大規模

## 2 学級数の基準

学級数については、現行の 1 学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学 年	人 数
小学 1 年生～中学 1 年生	35 人
中学 2 年生及び中学 3 年生	40 人

### 3 学校規模によるメリット・デメリット

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」P18、19、22からの抜粋

#### (1) 規模が小さい学校のメリット

- ① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ③ 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
- ④ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ⑤ 教材や教具などを一人ひとり行き渡らせやすい。
- ⑥ 異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- ⑦ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。
- ⑧ 児童生徒の家庭の状況や地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

#### (2) 規模が小さい学校のデメリット

##### ア 学級数が少ないことによる課題

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③ 教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ⑤ 運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの集団活動や行事の教育効果が下がる。
- ⑥ 上級生と下級生間のコミュニケーションが少なくなる。学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑦ 体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑧ 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑨ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ⑩ 教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。
- ⑪ 生徒指導上の課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- ⑫ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑬ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

## イ 教職員数が少なくなることによる課題

- ① 経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ④ ティーム・ティーチングやグループ別指導、習熟度別指導、専科指導などの多様な教育方法をとることが困難となる。
- ⑤ 教職員一人あたりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- ⑥ 学年によって学級数や学級あたりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる。
- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会などに参加することが困難となる。
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい(学年会や教科会などが成立しない)。
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある。
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。

## ウ 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- ① 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ④ 教員それぞれの専門性を活かした教育を受けられない可能性がある。
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある。
- ⑦ 進学などの際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

## (3) クラス替えが可能になることによるメリット

- ① 児童生徒同士の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる。
- ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。
- ③ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
- ④ クラス替えを契機として、児童生徒が意欲を新たにすることができる。
- ⑤ 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる。
- ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができる。
- ⑦ 指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる。

#### 4 本市の考え方

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えます。

過小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討します。
小規模	
やや小規模 (中学校のみ)	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

#### 5 最優先に検討する中学校区

中学校区で見た場合に、将来、全ての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される中学校区（坂下・藤山台・高森台・石尾台・岩成台）にある学校について、最優先に検討することとし、取組を進めています。

- (1) 坂下中学校区  
坂下中学校、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校
- (2) 藤山台中学校区  
藤山台中学校、藤山台小学校
- (3) 高森台中学校区  
高森台中学校、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校
- (4) 石尾台中学校区  
石尾台中学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校
- (5) 岩成台中学校区  
岩成台中学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

#### 6 これまでの取組

- (1) 令和7年2月  
「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」の策定
- (2) 令和7年4月～5月  
小中学校のPTA役員への説明、意見交換
- (3) 令和7年5月～6月  
保護者、子どもアンケートの実施
- (4) 令和7年6月～7月  
地域アンケートの実施
- (5) 令和7年9月～10月  
第1回意見交換会の開催

## II 児童生徒数推計について

令和22年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が1学級の「過小規模」とであると推定されます。

(1) 岩成台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「過小規模」と推定

学年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R 10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	80	3	91	3	89	3	89	3
2年	75	2	79	2	90	3	88	3
3年	80	2	74	2	78	2	89	3
合計	235	7	244	7	257	8	266	9

(2) 岩成台小学校 ※R11から「過小規模」と推定

学年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R 10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	27	1	30	1	31	1	30	1
2年	35	1	27	1	30	1	31	1
3年	38	2	35	1	27	1	30	1
4年	33	1	38	2	35	1	27	1
5年	38	2	33	1	38	2	35	1
6年	30	1	38	2	33	1	38	2
合計	201	8	201	8	194	7	191	7

(3) 岩成台西小学校 ※R12から「小規模」になり、R22では「過小規模」と推定

学年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	50	2	42	2	42	2	37	2
2年	38	2	50	2	42	2	42	2
3年	51	2	38	2	50	2	42	2
4年	58	2	51	2	38	2	50	2
5年	46	2	59	2	51	2	38	2
6年	52	2	46	2	60	2	51	2
合計	295	12	286	12	283	12	260	12

【参考】岩成台小学校、岩成台西小学校の合計

学年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	77	3	72	3	73	3	67	2
2年	73	3	77	3	72	3	73	3
3年	89	3	73	3	77	3	72	3
4年	91	3	89	3	73	3	77	3
5年	84	3	92	3	89	3	73	3
6年	82	3	84	3	93	3	89	3
合計	496	18	487	18	477	18	451	17

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
92	3	70	2	76	3
88	3	91	3	69	2
87	3	87	3	90	3
267	9	248	8	235	8

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
37	2
54	2
57	2
148	6

R22 (過小)	
生徒数	学級数
31	1
29	1
31	1
91	3

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
29	1	26	1	17	1
30	1	29	1	26	1
31	1	30	1	29	1
30	1	31	1	30	1
27	1	30	1	31	1
35	1	27	1	30	1
182	6	173	6	163	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
11	1
14	1
15	1
13	1
15	1
12	1
80	6

R11 (適正)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
37	2	28	1	20	1
37	2	37	2	28	1
42	2	37	2	37	2
42	2	42	2	37	2
50	2	42	2	42	2
38	2	50	2	42	2
246	12	236	11	206	10

R22 (過小)	
児童数	学級数
20	1
15	1
21	1
23	1
19	1
21	1
119	6

R11 (適正)		R12 (適正)		R13 (適正)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
66	2	54	2	37	2
67	2	66	2	54	2
73	3	67	2	66	2
72	3	73	3	67	2
77	3	72	3	73	3
73	3	77	3	72	3
428	16	409	15	369	14

R22 (小)	
児童数	学級数
31	1
29	1
36	2
36	2
34	1
33	1
199	8

### Ⅲ アンケート結果について

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】

児童アンケート …【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

- ・ 小学校回答者数… 754 人（保護者 339 人、児童（3～6 年生）348 人、地域の方 67 人）
- ・ 中学校回答者数… 335 人（保護者 152 人、生徒 183 人）

#### 1 学校の適正規模等に取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 6 割、地域の方で約 7 割、中学校の保護者で約 6 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」と回答した方 … 賛成

「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」と回答した方 … 反対

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

##### ① 小学校全体及び小学校別

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
全体	【保護者】	58.1%	32.4%	9.5%
	【地域】	71.6%	9.0%	19.4%
岩成台小	【保護者】	60.2%	28.8%	11.0%
	【地域】	73.5%	11.8%	14.7%
岩成台西小	【保護者】	56.3%	35.8%	7.9%
	【地域】	69.7%	6.1%	24.2%

##### ② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
岩成台中	【保護者】	61.8%	27.6%	10.6%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	87.8%	9.7%	2.5%
	【地域】	97.9%	2.1%	0%
岩成台小	【保護者】	90.8%	7.2%	2.0%
	【地域】	96.0%	4.0%	0%
岩成台西小	【保護者】	84.9%	12.1%	3.0%
	【地域】	100%	0%	0%

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
岩成台中	【保護者】	87.2%	9.6%	3.2%

## 2 複数学級を望む声について

1学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えています。

### 【小学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **96.8%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **66.1%**

### 【小学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている児童 **85.9%**

### 【中学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **99.4%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **64.5%**

### 【中学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている生徒 **98.9%**

### 3 学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、クラス替えができて友達がたくさんできることや、体育大会などの行事でクラスに活気があることが大事だと考えています。

地域の方は、多くの子どもたちによる人間関係の広がりや、子どもたちの登下校について重要と考えています。

#### 【小学生】

##### Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「クラスがかわって、新しい友だちがたくさんできること」 **46.6%**
- ・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 **37.6%**

#### 【中学生】

##### Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 **62.3%**
- ・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 **38.3%**

#### 【地域】

##### Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

- ・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 **59.7%**
- ・「子どもたちの通学の距離や方法」 **58.2%**

### 4 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や、子どもの人間関係の広がりを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

#### 【小学生保護者】

##### Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **58.4%**
- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **58.1%**

#### 【中学生保護者】

##### Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **61.2%**
- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **53.9%**

#### 【地域】

##### Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

- ・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」 **85.1%**
- ・「緊急時の避難場所が行きやすい場所にあること」 **31.3%**

## 5 学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

### 【小学校保護者】

#### Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **55.2%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **20.9%**

#### Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **59.6%**
- ・「登下校にかかる時間」 **35.7%**

### 【中学校保護者】

#### Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **45.4%**
- ・「環境変化による子どもへの影響」 **28.3%**

#### Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校にかかる時間」 **45.4%**
- ・「登下校の安全性」 **44.1%**

## IV 意見交換会でのご質問・ご意見について

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方やスケジュール、学校の跡地についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや市からの情報発信についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	岩成台中学校 (9月26日)	岩成台小学校 (9月29日)
参加者数	6人	23人
質問・意見 ( ) は件数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートについて (3)</li> <li>・統合に関することについて (2)</li> <li>・学校跡地について (2)</li> <li>・スケジュールについて (2)</li> <li>・その他の市の施策について (2)</li> <li>・児童生徒数推計について (1)</li> <li>・意見交換会について (1)</li> <li>・今後の具体的な検討の進め方について (1)</li> <li>・地域クラブの運営について (1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の具体的な検討の進め方について (3)</li> <li>・学校跡地について (2)</li> <li>・情報発信について (2)</li> <li>・魅力ある学校づくりについて (2)</li> <li>・過去の藤山台小の統合について (2)</li> <li>・統合に関することについて (1)</li> <li>・児童生徒数推計について (1)</li> <li>・学童について (1)</li> <li>・通学について (1)</li> <li>・学校施設の改修について (1)</li> <li>・避難所について (1)</li> <li>・その他の市の施策について (1)</li> </ul>

学校名 (開催日)	岩成台西小学校 (10月3日)
参加者数	19人
質問・意見 ( ) は件数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合に関することについて (3)</li> <li>・1学級の人数について (3)</li> <li>・児童生徒数推計について (2)</li> <li>・その他の市の施策について (2)</li> <li>・通学バスについて (1)</li> <li>・魅力ある学校づくりについて (1)</li> <li>・スケジュールについて (1)</li> <li>・学校跡地について (1)</li> </ul>

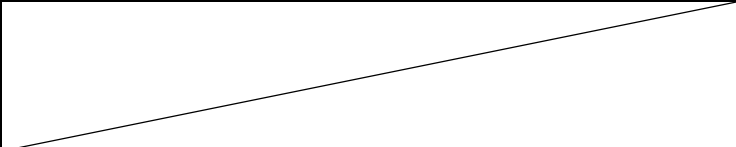
※意見交換会の会議録は、資料表紙のQRコードからご確認いただけます。

## 岩成台中学校区意見交換会 質疑応答一覧

### 1 岩成台中学校

No.	質 問	回 答
1	現在の岩成台中学校には部活の数が少なく、所属している子どもの数も少ない。地域クラブに所属する子が増えて、部活に入る子が少なくなり部活が成り立たない。子どもの数を増やすことを考え、中学校区をまとめてほしい。	岩成台中学校区は、このままの児童生徒数推計でいくと中学校区の中だけでは適正規模の確保ができなくなると推計されます。今後、近隣の中学校区と合わせて検討する必要があると考えます。
2	岩成台中学校と藤山台中学校は距離も近いし、統合すべきだと思う。部活動を盛り上げるためにも一定規模の子どもの数が必要ではないか。	児童生徒数が減少すると、過去のように盛んな部活動ができなくなると思います。子どもたちの活動の場を確保するためにも、市では一定規模の学校が必要と考えており、生徒数が増えれば、教員数も増え、盛んな部活動ができるのではないかと考えます。
3	地域の方へのアンケートの実施方法を確認したい。対象の世帯数、回答数はどのくらいあったのか。	地域アンケートは、インターネットによるアンケートで実施し、7月の広報配布に合わせて、案内チラシを坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5中学校区で約25,000世帯に配布しました。また、市の公式LINEやホームページでお知らせし、町内会未加入世帯への対応をしています。回答数は、岩成台小学校区にお住まいの方で34人、岩成台西小学校区にお住まいの方で33人であり、中学校区でみると合計67人の方から回答をいただいています。
4	令和22年度の推計値の算出根拠を確認したい。	春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンの数値から、各地域の推計値を算出しています。
5	学校の話も大事だが、子育て世帯を増やさないといけない。人口が減っていく中、市全体で対策を考えないといけない。	市ニュータウン創生課では、ニュータウン地区の活性化を目的に様々な施策に取り組んでいます。また、UR都市機構も若い人を呼び込む施策を進めており、市と協力して取組を進めているところです。 今後、子どもの数が少なくなっていくという状況の中で、市としては、ニュータウンの活性化と、子どもの教育環境の向上の両方の取組を並行して進めていきたいと考えています。
6	ニュータウンに住むだけではなく、人が集まるお店や働く場所の誘致も考えてほしい。	春日井市は交通の便からみても、利便性の高いまちだと言えます。今後も企業誘致の取組などを進めていきたいと考えています。
7	アンケートの結果について、市はどう考えているか。回答されなかった人の意見はどうなるのか。	地域の方の回答率は低かったですが、保護者の方からは多くの回答をいただきました。アンケート結果も参考にし、これから皆さまと協議していきたいと考えています。今後も意見交換会などの機会を設け、多くの方から意見をいただきたいと考えています。

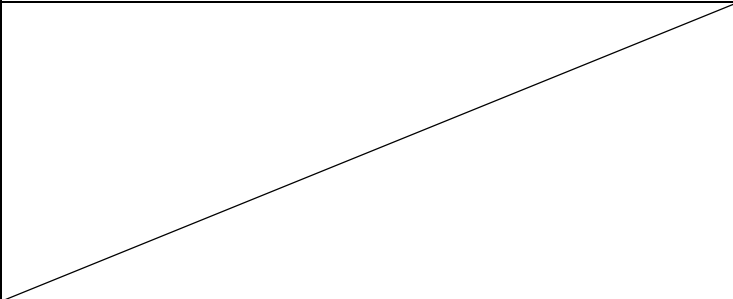
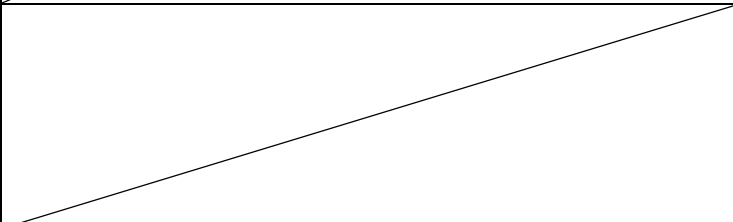
No.	質 問	回 答
8	<p>今後のスケジュールを知りたい。</p>	<p>スケジュールはまだ決まっていません。この地区の方向性について住民の皆さまと市との合意形成ができるタイミングによって、今後の進め方が変わってきます。</p> <p>仮に統合と決まった場合、学校をリニューアルする場合や、新しい学校をつくる場合など工事が必要になれば、5年程度の期間が必要になると考えます。既存の学校を使用するのであれば、より早い期間で取組が進むと考えます。</p>
9	<p>この学校の卒業生としては、もし学校がなくなるのであれば寂しい気持ちがある。統合するとなったら、跡地はどうなるのか、跡地の利活用の方法を示してから、統合を行うことになるのか。</p>	<p>小学校の体育館は、避難所や投票所としての機能もあり検討する必要がありますが、一番に考えることは子どもの教育環境の向上だと考えています。</p> <p>仮に統合するのであれば、跡地の問題は統合後の課題として、別に市全体で検討していきます。</p>
10	<p>藤山台小学校を統合した際は、反対意見が多かったが、跡地の利活用について説明をして納得されたという話を聞いた。今回は跡地の検討は統合後に決める話なのか。</p>	<p>学校の適正規模等の目的は、子どもの教育環境の向上であり、跡地の問題は別に検討していきたいと考えています。</p>
11	<p>藤山台小学校では5年くらいかけて統合されたと理解しているが、岩成台地区ではどうなるのか。</p>	<p>藤山台小学校は3校を統合してできた学校で、検討から6年程度かけて取組を進めました。当時は、地域の方や学識経験者などで組織された会議から統合すべきという答申があり、それを受けて、統合することを前提にして地域で説明を行っています。</p> <p>今回は藤山台小統合の時と進め方が違いますが、意見交換会の後に協議会を立ち上げたいと考えています。仮に統合すると決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合で期間は変わってきます。新しい学校をつくる場合やリニューアルする場合では、設計と工事の期間で5年程度必要となります。</p>
12	<p>子どもの数が減っている中、学級数が減って、クラス編成ができないのは学校としては健全な状態ではないと考える。運動会などの行事も盛り上がらない。</p> <p>取組に必要な時間を考えると、今回の検討に取り掛かるのが遅いくらいだと思う。</p> <p>市は丁寧な説明を心掛けていると思う。今後、住民からは様々な意見が出ると思うが、個々の意見ではなく、全体を見て進めていくようお願いしたい。踏み込んだ検討をお願いしたい。</p>	<p>スピード感を持って検討を進めていきたいと考えます。</p>

No.	質 問	回 答
13	<p>周りの保護者に説明会に行くか尋ねたところ、行かない人が多かった。その理由として、「開催時間が忙しい時間帯だから行けない」ではなく、「統合に関して答えが出ているだろうから、参加しても仕方がない」という意見が多かった。多くの方が意見交換会に参加できる工夫を考えてほしい。</p>	<p>年内に中学校区単位で2回目の意見交換会の開催を予定しています。市からの情報発信もしっかり行いますが、皆さまからも意見交換会への参加を呼びかけていただきたいです。</p>
14	<p>地域アンケートの回答が少なかったとのことだが、高齢者などにはQRコードを読み込むことが難しい方も多いのではないか。</p>	<p>回答の総数は少なかったですが、回答した方の約44%の方が61歳以上であり、高齢者にスマートフォンの操作ができないとは言えないと考えています。 インターネットが利用できない方には、電話で聞き取りを実施したケースもありました。今後、アンケートを実施するときは、より多くの方に答えていただけるよう工夫したいと考えています。</p>
15	<p>(意見) 地域クラブの運営について、保護者が負担する費用の面など、しっかりと検討してほしい。</p>	

## 2 岩成台小学校

No.	質 問	回 答
1	高座台は高蔵寺中学校に近いことから、岩成台中学校区と高蔵寺中学校区との統合は検討に入っていないのか。	今回の取組は坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区を対象にしています。まずは、ニュータウンの4中学校区の中で、学校が適正な規模となるように検討していきます。
2	藤山台小の統合の際、統合して良かった点、悪かった点について何か意見があったか。	藤山台小は3校が統合し、平成28年に開校しました。良かった点としては、「新しく充実した施設で過ごすことができている。」、「統合したことによって、児童数が増えクラス替えもできるようになったので、多くの友達と関わるができるようになった。」、「運動会を始めとした学校の行事が活発になった。」が挙げられます。 一方で、課題としては、「通学区域が広がり、通学時間がかかるようになったこと」が挙げられます。統合の際に一部の地域の方から、新しい学校への通学の負担が大きいという理由から通学区域を変更した例もあります。
3	小中学校の適正規模についてだけでなく、まちづくりの視点で若者が選んでくれる街にしてほしい。学校を変えるだけではいけない。	市では、ニュータウン地区の活性化を目的に様々な施策に取り組んでいます。また、UR都市機構も若い人を呼び込む施策を進めており、市と協力して取組を進めているところです。UR都市機構は、高森台地区で団地を高森台テラスとして整備するなど、若い世代を呼び込む施策を進めています。
4	将来的にこの地域に家を建てたいと考えている方たちにとっては重要な問題である。今後のスケジュールなど、統合に関する情報は早めに知りたい。マイホームを建てる人は情報を後で知ると不安になる。分かりやすいホームページづくりを心掛けてほしい。	今後、子どもの人数が減っていくことを考えると、できるだけ早くこの課題を解決したいと考えています。 統合するとなったとして、新しい学校をつくる場合、既存の学校をリニューアルする場合、既存の学校を使う場合など、それぞれの手法で差はありますが、工事が必要となれば5年程度の期間がかかります。 情報提供については、今後も市ホームページに掲載していきます。今どんな検討をしているかなど、随時情報発信をしていきたいと考えています。
5	アンケートの推計値について、地域の転出、転入の傾向も踏まえて計算しているのか。	中学校の令和19年度、小学校の令和13年度までは、現在の人口をベースに転出・転入の社会的増減要因を加味して推計しています。宅地造成などの要因についても確認できている範囲で加味しています。
6	統合すると子どもの家はどうなるのか。学校の規模が多くなると、定員はどうなるのか。	子どもの家は、放課後児童の安全な居場所として重要であり、統合後の学校で子どもの家が運営されることが望ましいと考えています。今後、学校の適正規模等の検討を進めていく中で、子どもの家の担当部署と連携し検討していきたいと考えています。

No.	質 問	回 答
7	<p>年中の子がいる。クラスは複数あった方が良く思っているが、スケジュールが気になる。ホームページでの情報提供はありがたいが、保育園のアプリなどでも配信をお願いしたい。</p>	<p>保護者への連絡アプリなどが利用できる保育園や幼稚園には、園にご協力いただき、アプリなどを通じた情報提供をしていきます。アプリなどのシステムが利用できない園は、チラシを園の掲示板に貼っていただくなどにより、保護者の皆様に情報が届くように努めていきます。</p>
8	<p>小学校の統合について、高座小学校に通った方が近い人もいると思う。高座小への通学を希望すれば叶うのか。</p>	<p>仮に統合する場合、基本的には現在の小学校区で考えることとなります。ただし、個人の希望だけではなく、地域全体のまとまった意見として希望されるような場合は、通学区域の変更も検討していきます。</p>
9	<p>高蔵寺ニュータウンは、まちの価値が下がっているのではないかと感じる。家を買うとなるとクラス替えがない学校の地域は選ばれない。春日井市から出ていく人もいるので、今回の取組をまちづくりの考え方を見直すきっかけにしてほしい。</p> <p>また、スクールバスを走らせて魅力ある小中一貫校をつくってほしい。みんなが行きたくなる学校をつくってほしい。</p>	<p>皆様とまちの活性化につながるような魅力ある学校づくりを検討していきたいと考えています。</p>
10	<p>統合するとなれば数年後の話だと思うが、現在の学校施設の修繕についてはどう考えているか。</p>	<p>学校生活をしていく上で不便があるところは随時、修繕していきます。施設の大規模改修については、統合の方向性を見極めてからになると考えています。</p>
11	<p>藤山台を統合した理由を聞きたい。その際に、通学先を変更した人がいると聞いたが、本来の学校規模の適正化の目的から外れているのではないか。スクールバスを使って藤山台小学校に通う考えはなかったのか。</p>	<p>当時の藤山台小学校は、児童数が少なく今後も減少傾向を示していたことや、学校施設も古かったことなどから、学校の統合を実施しました。</p> <p>通学先の変更については、地域全体で通学区域の変更の要望があり、通学区域審議会にて、妥当性が判断され認められました。</p> <p>また、当時はスクールバスの議論はほとんどなく、あくまで徒歩で通うことを前提とした議論をしていました。</p>
12	<p>小中学校は防災拠点としての役割がある。跡地の建物などは防災拠点として使う必要があると思う。</p>	<p>現状、跡地の利活用について、決定していることはありません。学校が防災拠点や投票所として使用され、地域の方の拠点施設となっていることは承知しています。</p> <p>しかし、学校規模の適正化等の取組については、子どもたちの教育環境の向上を最優先に考えたいと思っていますので、跡地の問題は一旦切り離し、市全体で別に検討したいと考えています。</p>
13	<p>学校の適正規模等にすぐに取り組み必要があるのか。岩成台地区と他の地区と比べてどの順番で実施していくのか。</p>	<p>中学校区内の全ての小学校が過小規模校、又は小規模になる中学校区を優先的に取り組むこととしています。順番については決まっておらず、皆様と協議をしていく中で、地域の意見がまとまった中学校区から、可能な限り早く進めていきたいと考えています。</p>

No.	質 問	回 答
14	<p>学校規模の適正化等の取組を急ぐ必要はないと考える。別の学校での説明会で、部活動の活性化のために統合を進めたいという意見も聞いたが、地域クラブの活動もあるので、部活動のために統合を進めることは論点がずれると思う。</p> <p>また、跡地の利活用の方向性も決まっていないことに不安を感じる。</p> <p>さらに、統合のタイミングで学校にいる子は、環境が大きく変わることを受験に不利になるかもしれない。今後のスケジュールなどのアナウンスは早くしてほしいし、子どもの将来に向けての準備期間、心の準備期間が必要だと思う。</p>	<p>仮に統合するとなった場合、子どもの環境が大きく変わるので、子どもたちへの精神的なケアは必要になると考えます。統合する学校同士の事前の交流も考える必要があります。スケジュールについては、最終的にどの時期に統合するということからさかのぼって考え、適切に情報提供をしていきます。</p> <p>また、跡地については、子ども、保護者や地域の皆様の意見を聞きながら、検討していきたいと考えています。</p>
15	<p>アンケートは住民投票とは違うので、合意形成の根拠には使えないと考える。いろいろな方の意見は取組にどのように反映されていくのか。どのような手続きをとって、これから進めていくのか。</p>	<p>今後の進め方としては、中学校区全体で2回目の意見交換会を開催します。その後、中学校区で保護者や地域の代表の方、学校関係者などで協議会のようなものをつくり、具体的な検討を続けていくことで取組を進めていきます。</p> <p>最終的には行政が方向性を判断して決めることになると考えますが、その前に皆様との議論をしっかりと行っていきます。</p>
16	<p>より良い教育環境の充実には先生の力が必要だと思う。先生たちとも連携をとって取り組みを進めてほしい。</p>	<p>先生方との意見交換も大切だと考えています。議論をしながら、魅力ある学校づくりを検討していきたいと考えています。</p>
17	<p>(意見)</p> <p>ニュータウンは地盤も強く、浸水や土砂崩れもない。安心できる土地である。</p> <p>私立の学校に行くより地元の学校が良いと言われるような、他の地区からも住みたいと思われるようなビジョンを考えてほしい。</p>	
18	<p>(意見)</p> <p>仮に統合するとなったとしても、避難所としての機能は維持してもらわないと困る。体育館だけではなく、教室も避難所として使うなどの考えも必要だと思う。</p>	

### 3 岩成台西小学校

No.	質 問	回 答
1	学校規模の適正化というのは、学校統合を考えているということか。	学校規模の適正化の取組については、統合を含めて様々な手法があります。今回の意見交換会で皆さまから様々な意見をいただき、今後の検討の参考にさせていただきたいと考えています。
2	バスの利用の話があったが、バスの安全性についてはどう考えているか。	バスの導入については、これから検討していくこととなります。導入の検討に合わせて、安全性についても検討していきたいと考えています。
3	学校規模の適正化の取組について、統合以外にどんな手法があるのか。	統合以外には、通学区域の変更があります。しかし、ニュータウン地区全体で子どもの数が減っている中で、規模の小さな学校が隣接する場合、通学区域の変更では根本的な解決にはならないと考えます。
4	統合については、通学の距離は長くなるものの、友達が増えるなどのイメージをもっている。しかし、通学区域の変更があると、地域によっては、別の校区に行くこともあり得る。友達がいなくなったりする場合も考えられるので、子どもたちの気持ちも重要視して考えてほしい。	子どもたちのつながりはもちろんのこと、保護者や地域のつながりも大事にする必要があると考えています。地図上だけでなく、地域単位で考えるなどの配慮をしっかりとしていきたいと考えています。
5	岩成台中学校でも説明会があったと聞いたが、小中一貫校について検討をしているのか。	岩成台中学校についても将来、過小規模になると推定されますので、隣接する中学校区を含めた検討も必要になると考えています。小中一貫校については、他市でも事例がありますので、皆さまと協議する中で最適なものを選択していきたいと考えています。
6	令和 22 年度まで人口推計があるが、先のことのように感じる。令和 22 年度まで推計した理由を聞きたい。	学校の適正規模等については、検討から開校まで長い時間を要する取組だと思っています。人口推計についても可能な限り先の状況を見据えて検討する必要があると考えて、令和 22 年度まで推計値を出しました。藤山台小学校では統合後、想定以上に子どもの数が減り、規模が小さくなってしまったこともあるので、先を見据えて検討する必要があると考えています。
7	個人的にこの令和 22 年度の推計値はショック療法のように感じてしまう。 各地域で説明会を開催して、多くの方の意見を直接聞くことは良いことだと思うし、今後、学校に関係がある若い世代の方の意見もよく聞く必要がある。 1 学級 35 人は多いと感じているので、春日井市独自の基準で 1 学級あたりの人数を変えることはできないか。	アンケートでは、公私立保育園や私立幼稚園に協力していただき、未就学児の保護者の方からも回答をいただいています。また、意見交換会の日程についても、同様に園に協力いただき、広く周知しました。 1 学級あたりの人数については、国・県の 1 学級の編制基準があるため、春日井市だけで 1 学級当たりの児童数を変更しても、県から配置される教員の数が足りなくなります。教員の不足や、市の予算上の課題もあり、市独自の設定は難しいと考えます。

No.	質 問	回 答
8	<p>他市では、働いている親が安心して子どもを預けられる環境をしっかりと整備することで、子どもの数が増えている例もある。</p> <p>春日井市も働く子育て世代のため、様々な施策を実施することを考えているか。</p>	<p>市教育委員会としては、子どもの教育環境の向上を一番の目的と考え、今回の取組をご説明させていただいています。</p> <p>春日井市は子育てしやすいまちとして、18歳までの子ども医療費の無償化、放課後児童クラブやなかよし教室の実施、子どもの屋外・屋内の遊び場の整備などを行ってきました。その他にも、学校給食費の食材費高騰分を市で負担し、保護者負担分を据え置くなどの支援を行っています。また、ニュータウン地区の活性化の施策を実施する部署もあります。市としては、これからも多角的に議論していきたいと考えています。</p>
9	<p>教育委員会ではどれくらいのスケジュールで進めていこうと考えているのか。</p>	<p>統合についての具体的なスケジュールは決まっていません。いつ皆さまとの合意形成がなされるかによって、スケジュールは変わってきます。仮に統合という結論になった場合、既存の校舎を使う場合、既存校舎の大規模なりニューアル工事を実施する場合、新築する場合によって変わります。</p>
10	<p>体育館のエアコンが整備されると聞いている。統合された場合にエアコンの整備が無駄になってしまうのではないかと思う。統合後の跡地のビジョンはあるのか。</p>	<p>現状決まっていることはありません。</p> <p>市教育委員会はより良い教育環境の実現を第一の目的に考えていますので、跡地の問題も大変重要だとは思いますが、一旦切り離して検討したいと考えています。</p> <p>体育館の空調整備については、無駄とは考えていません。現在の子どもたちの教育環境の向上という視点で喫緊の課題と判断して整備するものです。</p>
11	<p>令和 22 年以降の人口推計についてはどう考えているのか。</p>	<p>令和 22 年度以降の推計値は不明ですが、全国的な人口減少の中、子どもの数も減っていくため、このような減少傾向は続くのではないかと考えています。</p>
12	<p>子どもの通学路の安全性について、市の施策として、通学路の見守りのボランティアを増やすことや防犯カメラを多く設置してほしい。</p>	<p>子どもの通学路の安全性については全国的な問題になっていると理解しています。市教育委員会としては、今回の学校の適正規模等の取組を進めるとともに、担当部署と連携していきたいと考えています。</p>
13	<p>統合しても1クラス 35 人に満たないクラスがある場合どうするのか。</p>	<p>1クラスの人数は県の基準で決まっており、市独自の基準を設けることは考えていません。岩成台中学校区だけでは適正規模が維持できない場合は、隣接する中学校区と合わせた検討をする必要があると考えています。</p>
14	<p>先生の数には県の予算で決まっています、採用人数が限られている。県の基準があるので、春日井市独自の動きがとれないのか。</p>	<p>先ほどもご説明したとおり、クラス数に応じて配置される教員の人数が決まっています。ある程度の規模の学校であれば、学級数以上の先生が配置されることもあります。市独自の人数配置をすることは予算の関係からも困難であり、県の基準で配置しています。</p>

## V 本市の考え方について

「児童生徒数推計」、「アンケート結果」、「地域の特性」に「意見交換会」での意見も踏まえ、岩成台中学校区における各学校の適正規模及び適正配置に向けた考え方を示します。

### 1 児童生徒数推計

- (1) 令和 22 年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」と推定されます。また、小学校については、岩成台小学校と岩成台西小学校を統合した場合でも、「小規模」になると推定されます。

### 2 アンケート結果

- (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。
- (2) 保護者は子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒はクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。
- (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配しています。

### 3 地域の特性

- (1) ニュータウン地区内で、岩成台中学校区は藤山台中学校区、高森台中学校区と接しています。岩成台中学校は、直線距離で、藤山台中学校から約 0.9 km、高森台中学校から約 2.3 km の距離に位置しており、藤山台中学校が最も近い距離にあります。

### 4 意見交換会

- (1) 参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方やスケジュール、学校の跡地についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや市からの情報発信についてなど、様々な質問がありました。



**岩成台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区との学校統合に向けて検討を進めます。**

#### <検討にあたって>

- 1 隣接する中学校区として、藤山台中学校区を対象に検討していきます。
- 2 藤山台中学校区と合同の意見交換会や懇談会の開催を検討します。
- 3 登下校について、必要に応じて、バスの利用などの通学手段を検討していきます。
- 4 子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討していきます。

## 【参考資料】

### 1 児童生徒数及び学級数の推計

#### (1) 岩成台中学校区、藤山台中学校区の合計

##### ア 岩成台中学校、藤山台中学校の合計

学 年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	140	4	161	5	148	5	140	4
2 年	130	4	138	4	159	4	146	4
3 年	155	4	128	4	136	4	157	4
合 計	425	12	427	13	443	13	443	12

##### イ 岩成台小学校、岩成台西小学校、藤山台小学校の合計

学 年	R 7 (大)		R 8 (大)		R 9 (大)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	119	4	114	4	115	4	106	4
2 年	131	4	118	4	113	4	114	4
3 年	132	4	130	4	117	4	112	4
4 年	141	5	131	4	129	4	116	4
5 年	139	4	141	5	130	4	128	4
6 年	151	5	138	4	141	5	129	4
合 計	813	26	772	25	745	25	705	24

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (適正)		R12 (適正)		R13 (適正)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
135	4	126	4	118	4
138	4	133	4	124	4
144	4	136	4	131	4
417	12	395	12	373	12

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
64	2
82	3
84	3
230	8

R22 (やや小)	
生徒数	学級数
54	2
50	2
60	2
164	6

R11 (適正)		R12 (適正)		R13 (適正)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
101	3	89	3	68	2
105	3	100	3	88	3
113	4	104	3	99	3
111	4	112	4	103	3
115	4	110	4	111	4
127	4	114	4	109	4
672	22	629	21	578	19

R22 (適正)	
児童数	学級数
50	2
55	2
56	2
59	2
55	2
60	2
335	12

(2) 高蔵寺ニュータウン地区の他中学校区

ア 藤山台中学校区

(7) 藤山台中学校 ※R15から「小規模」、R16から「過小規模」になると推定

学 年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R 10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	60	2	70	2	59	2	51	2
2 年	55	2	59	2	69	2	58	2
3 年	75	2	54	2	58	2	68	2
合 計	190	6	183	6	186	6	177	6

(イ) 藤山台小学校 ※R11から「小規模」になり、R22では「過小規模」であると推定

学 年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	42	2	42	2	42	2	39	2
2 年	58	2	41	2	41	2	41	2
3 年	43	2	57	2	40	2	40	2
4 年	50	2	42	2	56	2	39	2
5 年	55	2	49	2	41	2	55	2
6 年	69	2	54	2	48	2	40	2
合 計	317	12	285	12	268	12	254	12

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
43	2	56	2	42	2
50	2	42	2	55	2
57	2	49	2	41	2
150	6	147	6	138	6

R19 (過小)	
生徒数	学級数
27	1
28	1
27	1
82	3

R22 (過小)	
生徒数	学級数
23	1
21	1
29	1
73	3

R11 (小)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
35	1	35	1	31	1
38	2	34	1	34	1
40	2	37	2	33	1
39	2	39	2	36	2
38	2	38	2	38	2
54	2	37	2	37	2
244	11	220	10	209	9

R22 (過小)	
児童数	学級数
19	1
26	1
20	1
23	1
21	1
27	1
136	6

## イ 高森台中学校区

(7) 高森台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「小規模」と推定

学 年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	99	3	78	3	95	3	89	3
2 年	92	3	98	3	77	2	94	3
3 年	94	3	91	3	97	3	76	2
合 計	285	9	267	9	269	8	259	8

(イ) 高森台小学校 ※R13まで「小規模」で推移、R22では「過小規模」と推定

学 年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	34	1	32	1	32	1	36	2
2 年	36	2	35	1	32	1	32	1
3 年	41	2	37	2	36	2	32	1
4 年	38	2	42	2	38	2	37	2
5 年	39	2	39	2	43	2	39	2
6 年	34	1	40	2	40	2	44	2
合 計	222	10	225	10	221	10	220	10

(ウ) 中央台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	21	1	23	1	16	1	13	1
2 年	27	1	21	1	23	1	16	1
3 年	29	1	27	1	21	1	23	1
4 年	22	1	29	1	27	1	21	1
5 年	33	1	22	1	29	1	27	1
6 年	21	1	33	1	22	1	29	1
合 計	153	6	155	6	138	6	129	6

(イ) 東高森台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	18	1	16	1	21	1	17	1
2 年	22	1	18	1	16	1	20	1
3 年	21	1	21	1	18	1	16	1
4 年	23	1	20	1	20	1	18	1
5 年	20	1	22	1	20	1	20	1
6 年	18	1	20	1	21	1	20	1
合 計	122	6	117	6	116	6	111	6

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
94	3	86	3	74	3
88	3	93	3	85	3
93	3	87	3	92	3
275	9	266	9	251	9

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
47	2
54	2
47	2
148	6

R22 (小)	
生徒数	学級数
38	2
35	1
36	1
109	4

R11 (小)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
27	1	40	2	32	1
37	2	27	1	41	2
32	1	38	2	27	1
32	1	32	1	39	2
38	2	32	1	32	1
40	2	39	2	32	1
206	9	208	9	203	8

R22 (過小)	
児童数	学級数
16	1
16	1
19	1
17	1
15	1
13	1
96	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
20	1	12	1	11	1
13	1	20	1	12	1
16	1	13	1	20	1
23	1	16	1	13	1
21	1	23	1	16	1
27	1	21	1	23	1
120	6	105	6	95	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
12	1
13	1
10	1
13	1
8	1
66	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
12	1	19	1	16	1
17	1	12	1	19	1
20	1	17	1	12	1
16	1	20	1	17	1
18	1	16	1	20	1
20	1	18	1	16	1
103	6	102	6	100	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
9	1
10	1
10	1
11	1
8	1
7	1
55	6

## ウ 石尾台中学校区

(7) 石尾台中学校 ※R18から「小規模」になり、R22では「やや小規模」と推定

学年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	110	4	103	3	100	3	100	3
2年	112	3	110	3	103	3	100	3
3年	115	3	112	3	110	3	103	3
合計	337	10	325	9	313	9	303	9

(イ) 玉川小学校 ※R 9から「過小規模」になると推定

学年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	25	1	21	1	25	1	19	1
2年	25	1	25	1	21	1	25	1
3年	33	1	25	1	25	1	21	1
4年	27	1	33	1	25	1	25	1
5年	46	2	27	1	33	1	25	1
6年	39	2	46	2	27	1	33	1
合計	195	8	177	7	156	6	148	6

(ウ) 石尾台小学校 ※「過小規模」で推移

学年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	21	1	22	1	14	1	23	1
2年	24	1	21	1	22	1	14	1
3年	33	1	24	1	21	1	22	1
4年	31	1	33	1	24	1	21	1
5年	21	1	31	1	33	1	24	1
6年	29	1	21	1	31	1	33	1
合計	159	6	152	6	145	6	137	6

(イ) 押沢台小学校 ※R13から「過小規模」になると推定

学年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	36	2	25	1	29	1	27	1
2年	21	1	37	2	26	1	30	1
3年	38	2	22	1	38	2	27	1
4年	35	1	39	2	23	1	39	2
5年	25	1	36	2	40	2	24	1
6年	32	1	26	1	37	2	41	2
合計	187	8	185	9	193	9	188	8

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
108	4	76	3	84	3
100	3	108	3	76	2
100	3	100	3	108	3
308	10	284	9	268	8

R19 (小)	
生徒数	学級数
33	1
54	2
38	1
125	4

R22 (やや小)	
生徒数	学級数
42	2
43	2
44	2
129	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
10	1	20	1	11	1
19	1	10	1	20	1
25	1	19	1	10	1
21	1	25	1	19	1
25	1	21	1	25	1
25	1	25	1	21	1
125	6	120	6	106	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
12	1
12	1
15	1
13	1
18	1
15	1
85	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
11	1	13	1	9	1
23	1	11	1	13	1
14	1	23	1	11	1
22	1	14	1	23	1
21	1	22	1	14	1
24	1	21	1	22	1
115	6	104	6	92	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
11	1
15	1
14	1
8	1
11	1
69	6

R11 (小)		R12 (小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
17	1	26	1	13	1
28	1	17	1	27	1
31	1	29	1	17	1
28	1	32	1	30	1
40	2	29	1	33	1
25	1	41	2	30	1
169	7	174	7	150	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
16	1
10	1
17	1
16	1
10	1
13	1
82	6

## 2 高蔵寺ニュータウン地区 学校区図

